

令和元年度 第1回 堺市スポーツ推進審議会 会議録

1. 日 時 令和元年11月1日（金）午前10時から
2. 場 所 堺市役所 本館12階 第3・第4委員会室
3. 出席委員 上野充司委員、広田新一委員、卜部啓一委員、田中義昭委員、
上野十次郎委員、岡本三代委員、清川健一委員、野田善生委員、
山田勝彦委員、中西一郎委員、平野祐子委員、田中ひかる委員、
坪内伸司委員、西山哲郎委員、藤本淳也委員
4. 欠席委員 西川良平委員、木谷文明委員、中敬三委員、
5. 行政側出席者 文化観光局長、スポーツ部長、スポーツ推進課長、
スポーツ施設課長、スポーツ推進課長補佐、スポーツ施設課長補佐、
スポーツ推進課企画係長、スポーツ推進課推進係長、
スポーツ施設課管理係長、スポーツ施設課施設係長
6. 傍聴者 なし
7. 案件
 - (1) 堺市スポーツ推進計画の改定に向けた堺市民のスポーツと健康に関する市民意識調査について
 - (2) 令和2年度スポーツ費等にかかる予算要求の方向性
8. 会長・副会長選任
令和元年・2年度の堺市スポーツ推進審議会会長に藤本淳也委員、副会長に上野十次郎委員が選出され、就任が決定した。

9. 会議内容

(1) 堺市スポーツ推進計画の改定に向けた堺市民のスポーツと健康に関する市民意識調査について

事務局より堺市スポーツ推進計画の改定に向けた堺市民のスポーツと健康に関する市民意識調査について説明

【西山委員】

総合型地域スポーツクラブについて、どこにどういう施設があるか堺市民に周知されていないと感じる。堺市の総合型地域スポーツクラブに関する説明を追加し、これまで総合型地域スポーツクラブの存在を知らなかった市民の気づきになる設問になればと思う。

【岡本委員】

調査をするたびに回答率が下がってきているが、出来るだけ回答率を上げていくことが広く市民の意見を集めることになるため、下がっている理由とどうすればこの回答率を上げることができるのか考えて工夫した方がいいと思う。

【事務局】

前回調査の回答では、最後の設問まで回答をされていない事例が多くみられた。設問の数が多いことが原因と考えており、途中で回答をやめた方がいたということは、初めから回答すること自体を敬遠された方も相当数いたものと推察される。今回はできる限り煩雑な質問内容を削減し、極力設問数も減らしている。調査票を発送する際には、同封文書にて本調査が本市にとって有意義な情報となることを案内するなど、最後の設問まで回答していただけるような工夫を行う。

【藤本会長】

調査回答をもって、全堺市民のパーセンテージと思っているが、実際はスポーツに関心のある 36%の方の回答であるのかもしれない。とすれば関心のない方の意見を取り損ねているということにつながっていく。回答しやすい、見た目も考えていただきたい。

【中西委員】

「スポーツになぜ関心がないのか」についての設問項目を自由記述で追加すれば、理由が具体的によくわかるのではないか。関心がない人から意見をもらえるような設問があれば良いと思う。

【藤本会長】

前回の調査でスポーツに関心がない理由に関する設問はあるのか。

【事務局】

「運動やスポーツをしなかった理由」を問う設問はある。

【藤本会長】

関心の有無や普段運動不足と感じる有無の原因を分析できるような設問の設定が必要であると思う。

【坪内委員】

最近、ウォーキングを早朝 5 時頃から行ったり、24 時間営業施設の利用も増加しており、スポーツ施設の利用有無のほかに、スポーツを実施している時間帯を把握することも大切ではないかと思う。また、スポーツを実施していない人でも、どの時間帯なら実施できる可能性があるのかも把握できれば良いと思う。

【藤本会長】

前回の調査ではスポーツ施設に通っていない人が多く、その方々は早朝や夜にジョギングやウォーキングをしている傾向がある。一日の生活の中で、どのようにスポーツに関わっているのかを知ることによって新たな気づき生まれるかもしれないので、事務局の方で検討していただきたい。

【上野充司委員】

堺市民でも J-GREEN 堺のすごさや存在自体を知らない方が多くいる。せっかく良い施設があり、今後原池公園野球場や大浜体育館の建替えがあるので、これらの施設の PR をすることも大切であると思う。本調査票でも施設に関する項目を追加し、その結果を施設の PR や各施策に繋げていただければと思う。

【藤本会長】

現在、第 2 次堺市スポーツ推進計画の改定に向けて取り組んでいるが、これからどのように進んでいくのかということが非常に大切になってくる。本調査において、今後堺市としてめざすものを裏付けるような状況を確認できるかということが大事である。

(2) 令和 2 年度スポーツ費等にかかる予算要求の方向性について

事務局より令和 2 年度スポーツ費等にかかる予算要求の方向性について説明

【西山委員】

学校の運動部活指導員は堺市では予算措置をしているのか。

【事務局】

教育委員会の方で、予算措置をしている。

【上野充司委員】

堺市で実施したラグビーワールドカップ関連のイベントに親子で参加し楽しませていただいた。大会組織委員会等との関係で仕方がないことがあるのも承知しているが、もう少し告知ができていれば良かったと思う。また、事後でもいいので、堺市としても大会に携わったことを公表していくべきである。

次年度はオリンピック・パラリンピック競技大会があり、先ほどアルゼンチンとの協定締結についてお話をいただいたが、今後の東京 2020 に対してどのタイミングでどのように動くのか、どこに焦点をしばっていくのか等、この場で公表できる範囲でお教えいただきたい。特に本日お集まりいただいた委員のみなさんは大きな発信力をお持ちだと思うので、共有していただくことが効果的だと思う。

【事務局】

ラグビーワールドカップについては、おっしゃるとおり、周知が至らなかった点はある。その要因としては、イベントの開催可否の決定のタイミングが直前であったことが大きい。チームはトレーニングやコンディションが最優先であるため、仕方のないことだと思われる。

また、現状最も拡散できる周知方法は毎月発行する広報さかいであるが、イベント開催が直前に決まることから広報さかいへの掲載が間に合わなかったことも要因と考えられるため、今後活用する情報発信ツールも検討していきたい。また、委員の皆様の発信力を生かしての情報発信もぜひ検討させていただきたい。

オリンピックのブラインドサッカーについては、選手村に入る直前の夏休み期間中に競技体験会や施設訪問ができないかと、先方からご提案いただいているところであり、今後その内容が決まり次第周知を進めていきたいと思っている。

また、J-GREEN 堺と原池公園スケートボードパークを東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ候補地として手をあげており、J-GREEN 堺ではサッカー競技の誘致のため、競技団体等と連携して誘致に向けて取り組んでいるがなかなか話が進んでいないのが現状である。

【藤本会長】

事務局の説明のとおり、国際大会等に係るイベント実施の有無は直前で決定するのが一般的であり、そこからメディアリリースをして慌ただしく準備することとなるため、周知が難しいところはあると思う。

また、イベント実施の報告資料を作成する場合は、メディア等に取り上げられた実績を示していただきたい。主催者が作成する資料よりもインパクトがあり、何より、費用をかけて事業を行っていることから、メディアに取り上げられた記事の件数等が

事業効果を図る有効ツールになるためである。

【上野十次郎副会長】

桃山学院教育大学でスポーツアカデミーをしていただくことは大変ありがたい。ただ、これまで総合型地域スポーツクラブに取り組んできたが、なかなか成果が上がっていないのが現状である。中には「総合型地域スポーツクラブ」という言葉を知らない人もいる。そのため、参加意欲を掻き立てるために、これらのクラブを紹介する啓発用パンフレット等を作成し学校等に設置するのはどうか。それらに係る予算を令和2年度に計上して欲しい。

【事務局】

総合型地域スポーツクラブについては、大学がある2つの小学校区の代表者の方にも準備委員会に参画していただき、各学校等で周知してもらうように毎月協議を重ねている状況である。また、各校区のスポーツ推進委員を通じて可能な限り、クラブができたことを地域の方々に周知していきたい。

【中西委員】

スポーツ少年団は前回のオリンピック時に設立され、2020年で設立50周年となる。前回のオリンピックの聖火リレーにも関わった。そこで、経費については、開催都市が負担すると聞いているが、その他の経費や聖火リレーの現状、規模を教えてください。

【事務局】

聖火リレーは、現在ランナーの人選に入っており、12月後半に発表の予定であったが、1月になる可能性もあると聞いている。また、コースは12月末に発表予定である。経費については、オープニングセレモニーや警備関連の経費が開催市の負担となる。

【藤本会長】

事務局の説明で予算が削減される厳しい現実があることがわかった。一方で先ほどの意識調査で方向性を出し、予算を使ったことの成果を積み上げていかなければ、いくらやったことの実績を主張しても予算確保は難しいのではないかと思う。そのためには、メディア等に取り上げられる仕掛けをしていく必要がある。決められた予算内で成果を示しつつ、予算の確保につなげられればと思う。

【野田委員】

現在、のびのびルームの事業で子どもたちがグラウンドゴルフをしているが、子ども用のグラウンドゴルフ備品が足りていない状況にある。1～3年生ぐらいの子どもが多く、大人用は長さが違うため、大人が使うようにはいかず子どもたちにとっては非

常に危険である。ニュースポーツの予算が今回削減されているが、必要な備品の予算はしっかり計上していただきたい。また、一般の方で、用具を買ってまでスポーツをやろうと思う人は少なく、貸出を行ったり、どこに行けば出来るのかの周知等、根本的なことが進んでいない。気軽にスポーツを始めたいと思っている方が多いと思われるため、今後これらを進めていけばスポーツ実施率も向上するのではないかと考える。

【事務局】

グラウンドゴルフはニュースポーツの中でも大変人気のある競技の一つであるが、利用者は高齢者が中心であり、これまで子どもの利用頻度が少なかったため、このような認識があまりなかった。今後、各体育館とも協議しながら在庫状況を確認し、改善できるところは改善していきたい。

(3)その他

事務局より原池公園野球場でのネーミングライツ導入について説明

(意見なし)